Ver.210213

感染症　ワクチン集団接種会場
運営イメージ資料

本資料は、運営に関する提案イメージになります。
接種予約や接種券のシステム仕様、医療機関の見解、接種会場の諸条件（広さなど）など
を反映させることで実際の運用に近づけることを目的としています。

運営に関わるポイント

① 接種可能な人数を割り出すにあたり、被接種者の各行程での所要時間の目算をたてる。
② 接種会場で、密にならないような、『予約時間振分け』、『スペースの確保』が必要である。

① 被接種者の行程と所要時間(予定)

行程	詳細	所要時間(予定)
一次検温/手指消毒	会場への入場に際する検温と手指消毒	15秒/人
受付	接種券を元に本人確認。 バーコード等の読取りによるシステム処理	90秒/人
予診票記入	所定の予診票を記入	人により差異が大きい
接種待機	予診/接種の順番待ち	ー
二次検温	ワクチン接種に際する検温(接触型が好ましいとされている)	45秒/人
予診	医者による問診	人により差異が大きい
接種	ワクチン接種	60秒/人
接種済証発行	接種券シートに接種済証(シールタイプ?)を貼り付ける	30秒/人
状態観察	15分~30分 状態を観察する(副反応の有無の観察)	30分/人

運用ご提案

- 川崎市の訓練でも予診票記入、予診に時間がかかったとの結果から、この2つの行程が接種可能人数を上げる肝になる。
  ★ 予診票 → 受付前に事前に記入いただけていることが好ましい。
  『接種券と同送する事前送付』と『受付前に予診票の設置/記入所を設ける』の2つのパターンを提案
  ★ 予診 → 接種に関する医療的な問い合わせが出来るように『受付付近に事前相談窓口の設置』を提案
- 上記の対応を元に、**予診~接種 の行程を3分/人** に近いスピードを実現したい。
- そうすることで接種可能人数は、1ライン(予診~接種)につき、3分/人の計算が出来る。

②『予約時間振分け』と『スペース確保』

運用ご提案

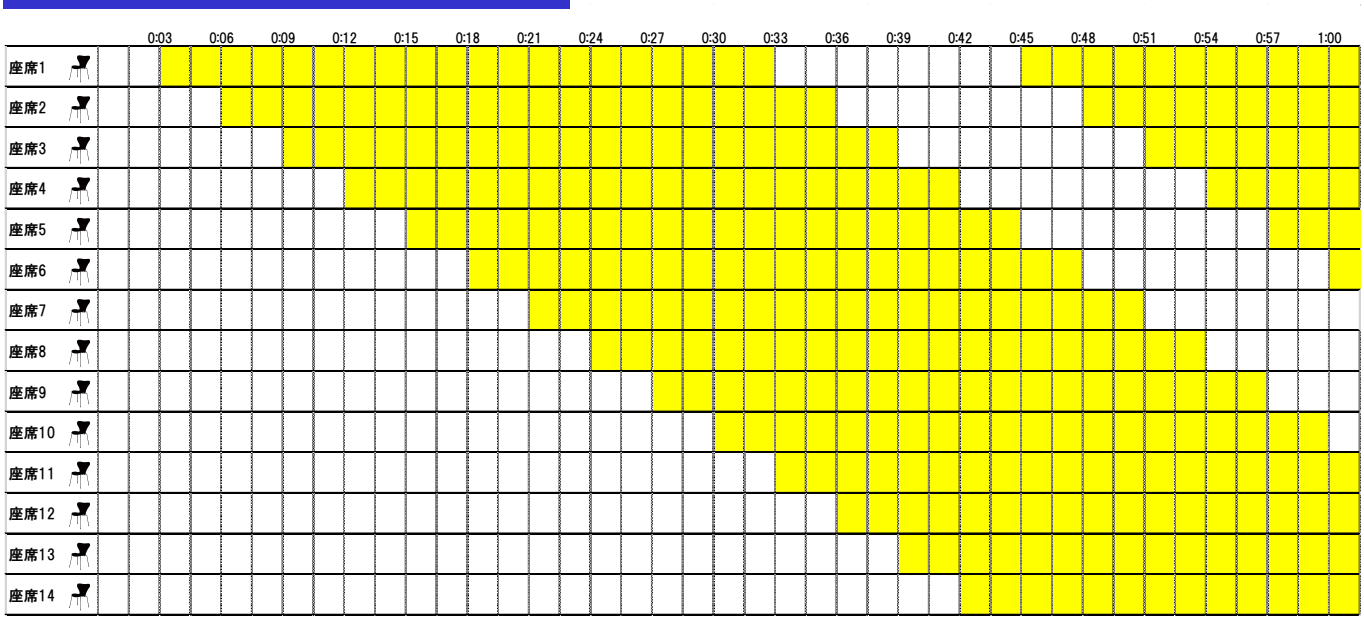
- 接種可能人数から逆算した人数で、**30分単位の時間予約**を提案

  【例】 1会場で、1時間40人の接種を予定している場合

  9:00-9:30→20人 、 9:30-10:00→20人　といった具合

  ※予想以上に接種スピードが上がった場合や欠席者などを考慮した多少の過剰予約を考慮する必要あり。
- 接種待機所のスペースは、**最大で上記30分間の予約人数分の待機所（席数）**があればよい。
- 状態観察所のスペースは、下図より**1ラインあたり、最小14席のスペース（席数）を基本として考えられる。**

状態観察所　座席埋まり状況イメージ（1ライン時）



- 座席が埋まっている状態を黄色で表す。
- 1ラインにおいては、3分おきに座席が埋まっていくこととなる。
- 1人の被接種者が30分経過後に退席し、12分間の間隔をあけて次の方が着席するイメージとしている。

- **本イメージは、被接種者のみが着席するイメージで、同伴者が着席することは考慮していない。**

  ※同伴者の着席を考慮する場合は、それに応じて増席の必要あり。

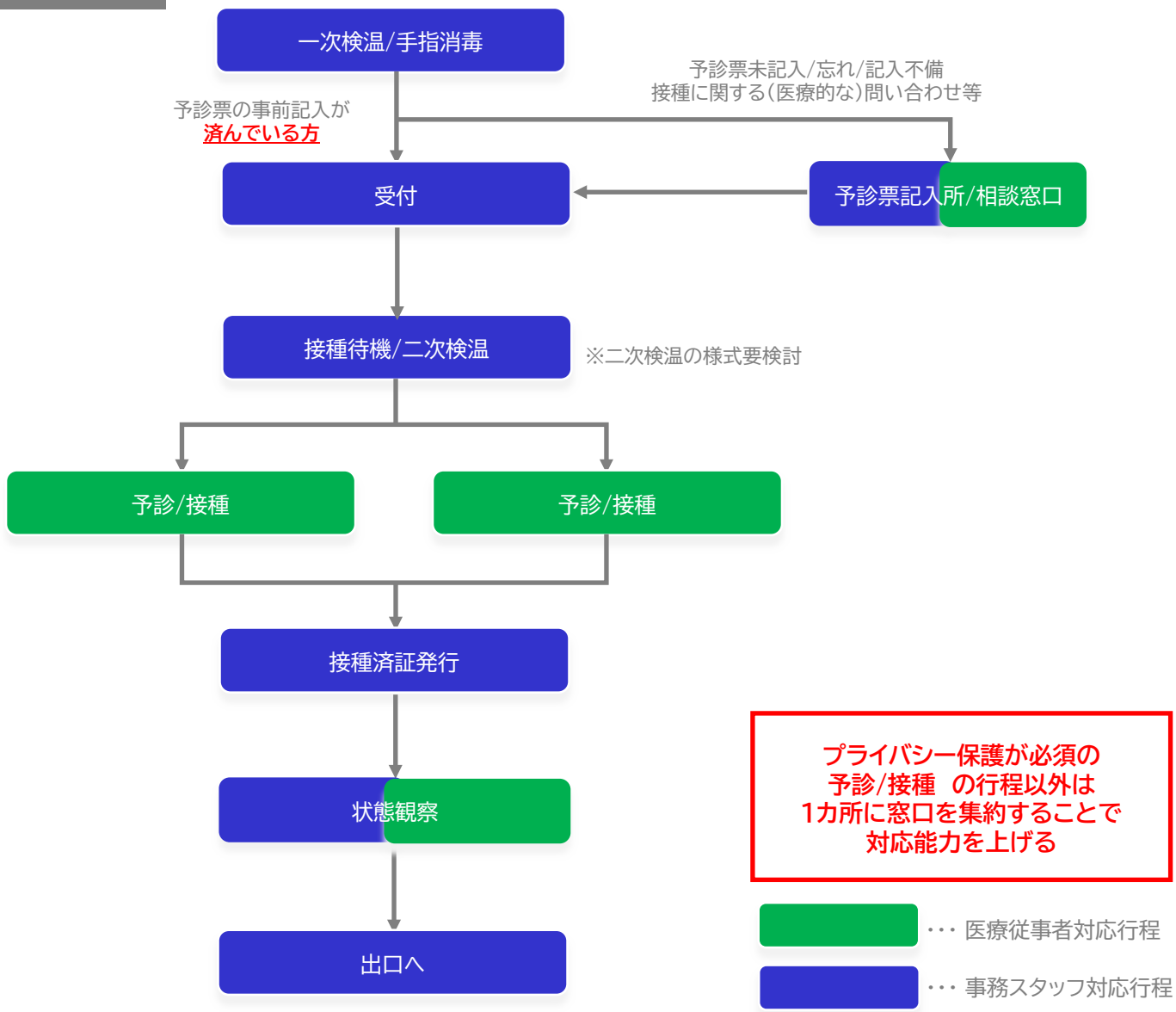
被接種者のフロー（予診票を事前送付する場合）

接種可能人数　3分/人　を実現するための被接種者フロー（2ラインの場合）を考える。

【ポイント】

- 受付の混雑、停滞を回避するために、準備物（接種券、身分証、予診票）が整っていない方を事前に振り分ける
- プライバシー保護が必須の予診/接種の行程以外は、1カ所に窓口を集約することで、対応処理能力をあげる

被接種者フロー



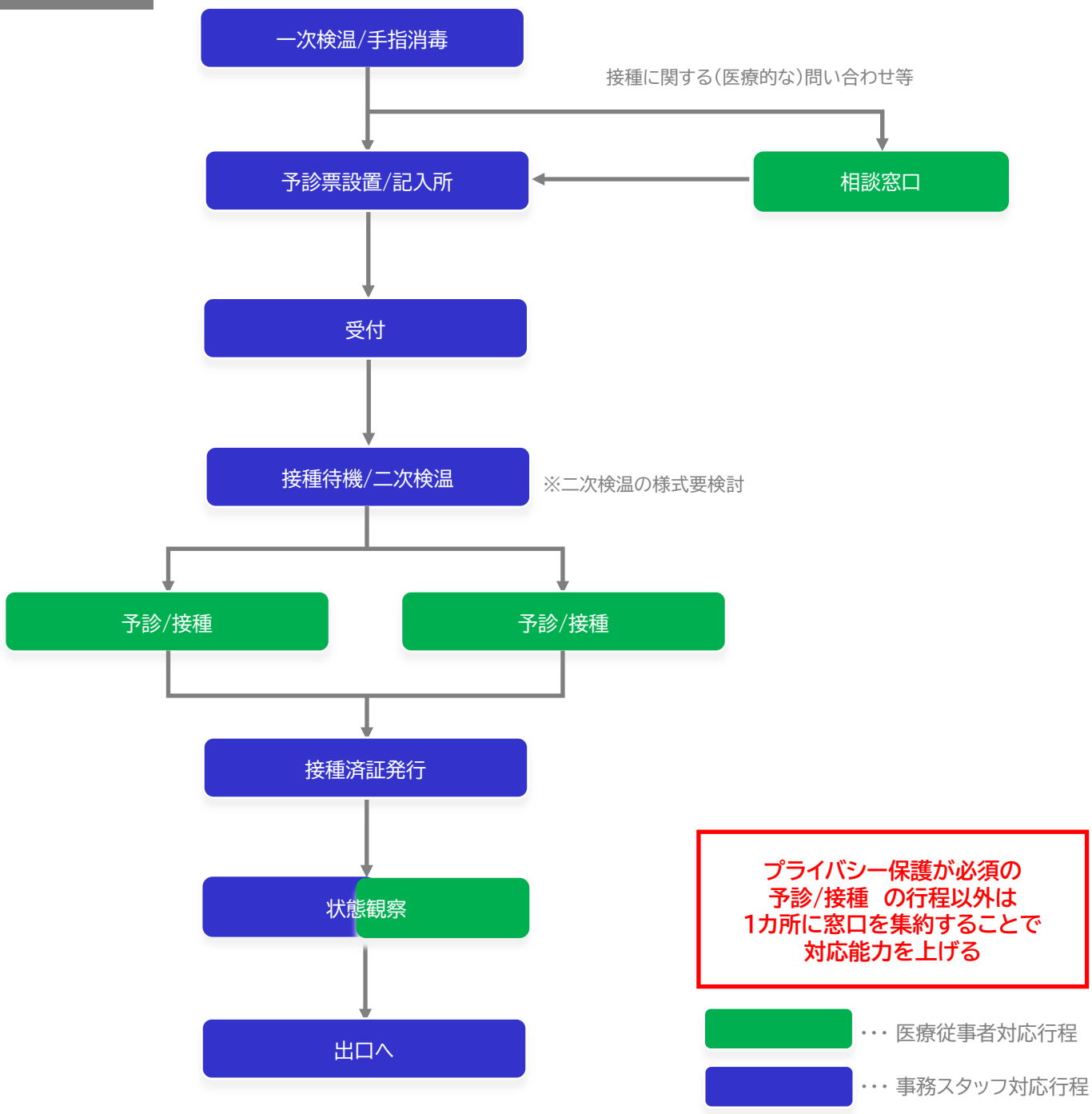
被接種者のフロー（予診票を当日配布する場合）

接種可能人数　3分/人　を実現するための被接種者フロー（2ラインの場合）を考える。

【ポイント】

- 受付後の停滞が、接種スピードを下げる要因になるので、予診票の記入所を受付前に設け、そこに予診票を設置しておく。
- 記入不備による受付の混雑、停滞を回避するために、記入所での記入方法等のフォローが出来る体制を整える。
- プライバシー保護が必須の予診/接種の行程以外は、1カ所に窓口を集約することで、対応処理能力をあげる

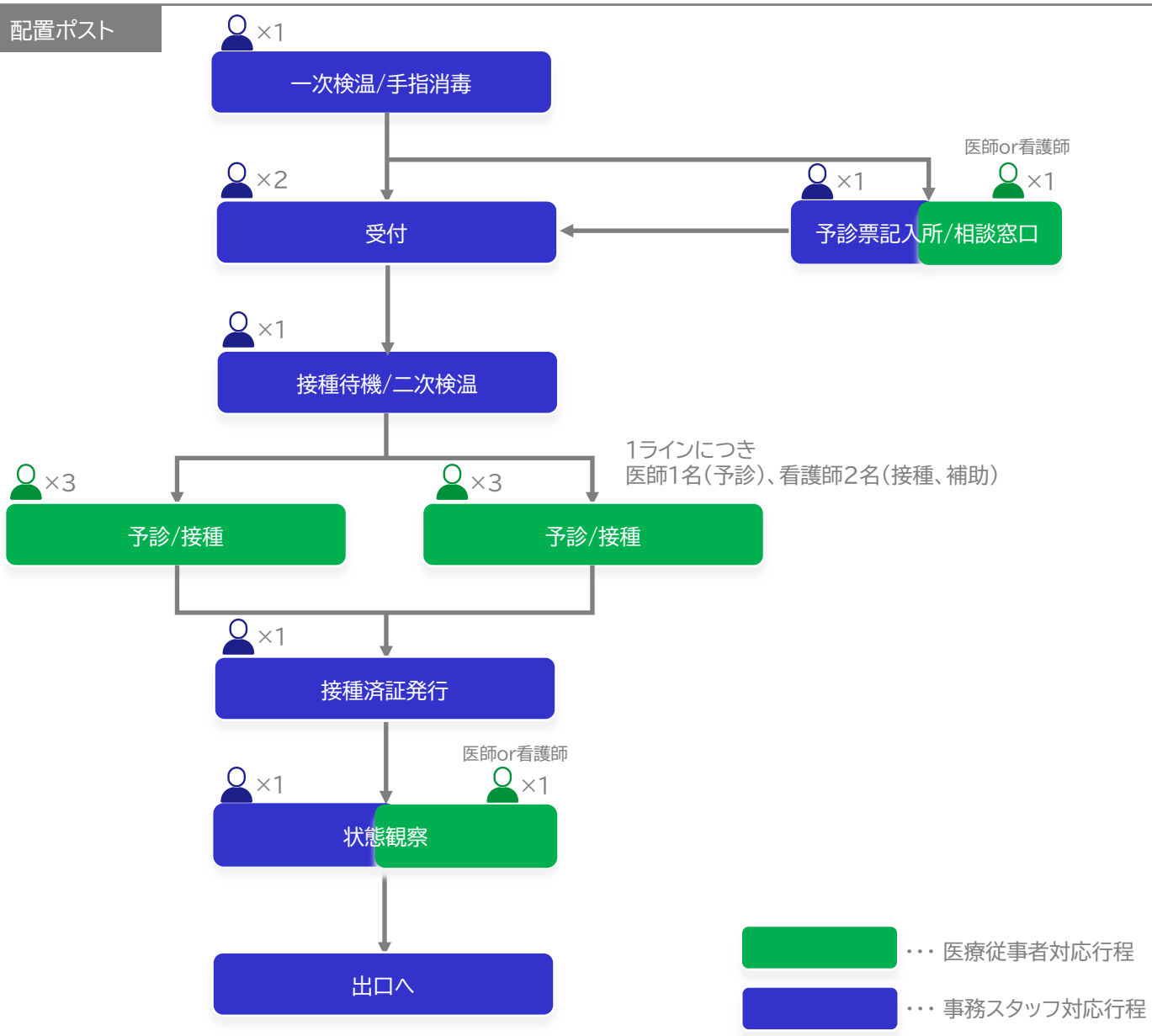
被接種者フロー



スタッフ配置ポスト(予診票を事前送付する場合)

1ラインで、3分/人で予診/接種　が出来る事を基準とし、その人数換算から各行程の窓口数(ポスト数)を算出する。
2ラインの場合(1時間あたり、40名接種可能)を例にとって考える。

配置ポスト



■上記のポスト数での1時間あたりの対応可能人数

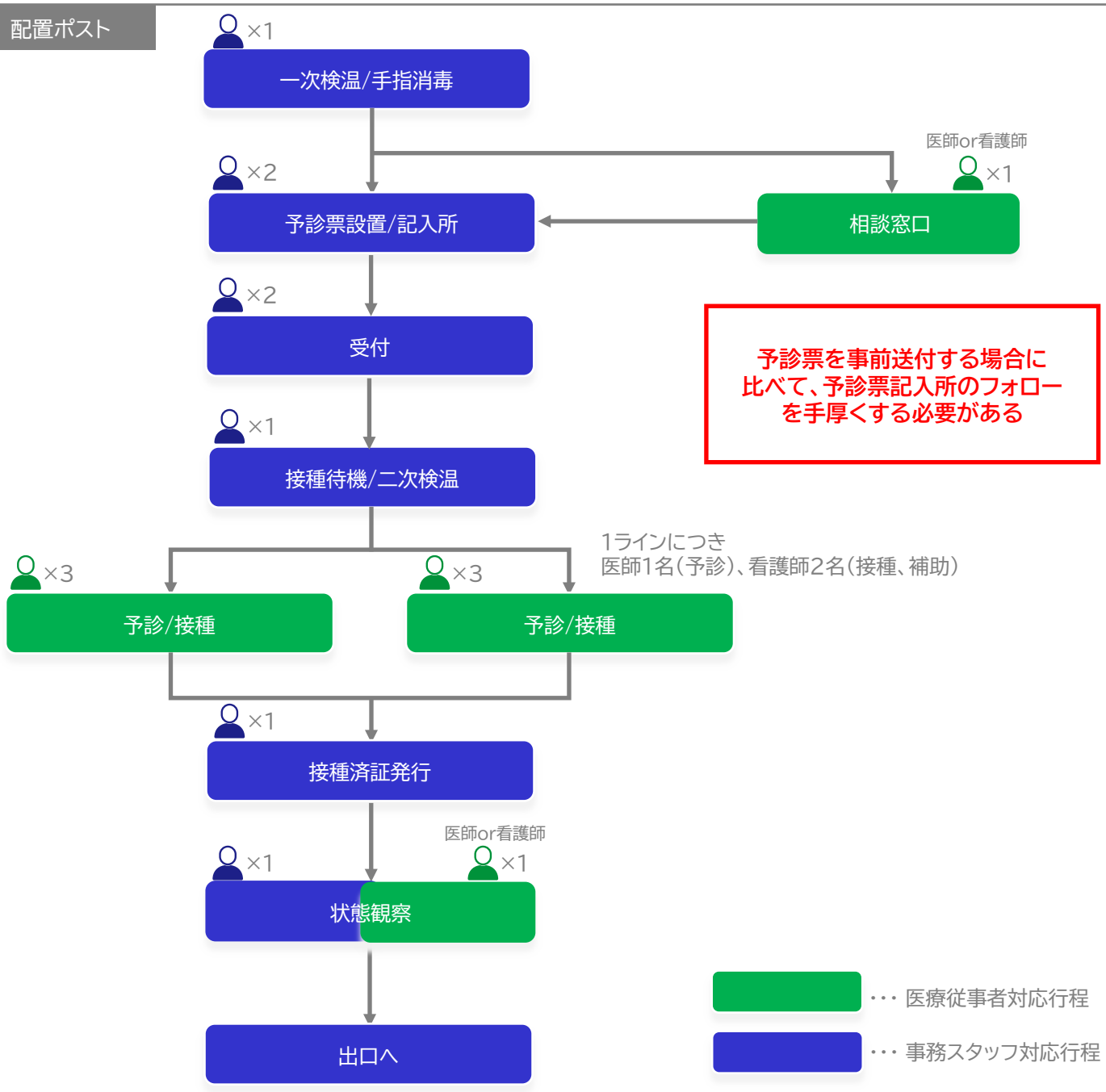
行程	1窓口の対応可能人数	窓口数	総対応可能人数
一次検温/手指消毒	240人	1	240人
受付	40人	2	80人
予診/接種	20人	2	40人
接種済証発行	120人	1	120人

基準となる、予診/接種　の対応可能人数を他の行程の対応可能が上回っているので、妥当なポスト数だといえる。

スタッフ配置ポスト(予診票を当日配布する場合)

1ラインで、3分/人で予診/接種　が出来る事を基準とし、その人数換算から各行程の窓口数(ポスト数)を算出する。
2ラインの場合(1時間あたり、40名接種可能)を例にとって考える。

配置ポスト



■上記のポスト数での1時間あたりの対応可能人数

行程	1窓口の対応可能人数	窓口数	総対応可能人数
一次検温/手指消毒	240人	1	240人
受付	40人	2	80人
予診/接種	20人	2	40人
接種済証発行	120人	1	120人

基準となる、予診/接種　の対応可能人数を他の行程の対応可能が上回っているので、妥当なポスト数だといえる。

スタッフ業務内容

一次検温/手指消毒	・非接触体温計で検温を実施。37.5℃以上の方の入場をお断り ・接種券の所持を確認する。不所持者（同伴者除く）の入場をお断り ・手指の消毒をうながす	
予診票記入所	・予診票の未記入者、忘れなどを記入所へ案内 ・記入方法や記入漏れなどのフォローを行う ・受付混雑回避のために、準備物（接種券、予診票、身分証）の事前準備をうながす	
相談窓口	・予診で時間をとらないためにも、接種に関する医療的な問い合わせはここで事前に受け付ける	
受付	・接種券と身分証による本人確認を実施 ・接種券のバーコードを読み込み ・予診票の記入確認	
接種待機	・待機所の空席案内 ・被接種者を予診/接種所へ呼び出すことのフォロー ・待機所座席の適宜の消毒	
接種済証発行所	・接種済証の発行 ・状態観察に関する案内	
状態観察所	・状態観察所の空席案内 ・経過時間確認のフォロー ・状態観察所座席の適宜の消毒 ・出口の案内	

実際の運用にあたっては、今後決まってくる詳細に合わせて業務調整を行います。

【確認していく詳細】

- 接種予約システム　→　被接種者の予約状況の確認と、その照合方法
- 受付時の接種券のシステム処理　→　どういった仕様になるのか？（処理時間など）
- 2次検温の様式　→　誰が（非接触者、医療従事者、事務スタッフの選択）どんな機器（接触、非接触）を用いて行うのか？
- 予診/接種所への呼び出しの順番に関して　→　受付時にシステム処理が出来るのか？　別途受付番号が必要なのか？
- 接種済証発行様式　→　シールタイプとの情報があるが、発行にどれだけの時間がかかるのか？
  V-SYSの入力方法など
- 状態観察時間の管理方法　→　接種時間の印字がシステムで可能なのか？　それに合わせて、時間が経過したかの
  チェック機能が必要になる。

■ライン数におけるポスト数と1時間あたりの対応可能人数、各種スペース（予診票を事前送付する場合）

※必要ポスト数につき、実際のスタッフの発注人数は諸条件に合わせた設定になります。

※予診票を当日配布する場合、予診票記入所のスタッフ1ポスト以上の追加が必要になります。

配置箇所	2ライン			3ライン			4ライン		
	スタッフ	医師	看護師	スタッフ	医師	看護師	スタッフ	医師	看護師
一次検温/手指消毒	1			1			1		
予診票記入所/相談窓口	1	1		2	1		2	2	
受付	2			2			3		
接種待機/二次検温	1			1			2		
予診/接種		2	4		3	6		4	8
接種済証発行	1			1			2		
状態観察/出口	1	1		2	1		2	1	
遊撃	2			2			2		
TOTAL	9	8		11	11		14	15	

1時間あたりの対応可能人数	40人	60人	80人

接種待機所の座席準備数	20席	30席	40席
状態観察所の座席準備数	36席	54席	72席